

## もくじ

入門期の指導計画例	1 ~ 3
1, 文字指導に入る前の段階	( 1 - 1 ) ~ ( 1 - 1 2 )
2, かな文字指導の段階	
( 1 ) 清音	( 2 ( 1 ) - 1 ) ~ ( 2 ( 1 ) - 9 )
( 2 ) 濁音	( 2 ( 2 ) - 1 ) ~ ( 2 ( 2 ) - 4 )
3, 表記のしかたの指導の段階	
( 1 ) 促音	( 3 ( 1 ) - 1 ) ~ ( 3 ( 1 ) - 2 )
( 2 ) 行と段	
( 3 ) 長音	( 3 ( 3 ) - 1 ) ~ ( 3 ( 3 ) - 6 )
( 4 ) 拗音	( 3 ( 4 ) - 1 ) ~ ( 3 ( 4 ) - 4 )
( 5 ) 拗長音	
4, 文法指導と関係づけて表記のしかたを指導する段階	
( 1 ) 文と単語	
( 2 ) くっつき ( 助詞 )	( 4 ( 2 ) - 1 ) ~ ( 4 ( 2 ) - 1 0 )
( 3 ) あわせ単語	

示しているページは、指導計画例の目次番号に対応しています。  
 そのため、今回、3 ( 2 ) のように、指導例が提示できていない箇所については、  
 空欄となっています。できれば、今後、この指導例を増やして、改訂版として、みな  
 さんにお示ししたいと思っています。

## 入門期の指導の計画例

先にのべたように、入門期の指導は、単なるかな文字を習得させる指導ではありません。そこで、次のような段階にわけて、指導計画をたててみます。学級・学校の実態によってちがってくるのは当然ですが、一つの例として参考にしてください。

1, 文字指導に入る前の段階... 7 時間	( 初めて文を意識する段階 )
文を意識化する	... 1 時間
文を単語にわけ	... 2 時間
くっつき ( 助詞 ) を意識化する	... 1 時間
単語で文をくみたてる	... 1 時間
単語を音節に分解する	... 1 時間
書く基礎技能 ( 運筆など )	... 1 時間

この段階では、子どもたちに「書きことば」を意識させます。これまで子どもたちは、生活の中で「話しことば」を使ってきました。きちんと話をしなくても、通じているつもりできたのです。実際、「話しことば」では、話し手と聞き手が同じ場所にいますから、いちいちを話さなくても通じます。「ねえ、これ。」「だめよ。」「だってえ。」「また、今度。」「えええっ。」などという会話も、その場の状況を共有しているから成り立ちます。これを、『行動場面的』といいます。(ここでいう「話しことば」とは「音声言語」のことではありません)。ところが、「書きことば」では、場面を共有していなくても聞き手にわかるように伝えることができます。これが大切です。昨日あったできごとを、それを知らない友だちにわかるように伝える。これは、「書きことば」でないとできません。「だれが、どうした。」「だれが、何をどうした。」ということをきちんと思い出して伝えます。(ここでいう「書きことば」は「文字言語」のことではありません)。そういう意味で、朝の一言スピーチのような活動が重要だといえます。

また、初めて、文意識、単語意識をもたせます。ここまでの子どもは、文や単語を意識して生活してはいないでしょう。たとえ、絵本を読んだり、読みきかせをしてもらっていても、日本語としての文や単語を意識しているとはいえません。そこで、朝の一言スピーチや、絵を見て話を作ったりする活動の中で、「何が - どうする。」という文をしっかりと意識させます。そして、その文を組み立てている単語を意識させます。一つの文の中で、いくつの単語が使われているのか、ということを考えさせたりします。このことが、これからの作文の基礎的な力になっていきます。

さらに、単語が音でできていることも意識させます。これは、この後の「かな文字指導」に直接つながります。かな文字は音節文字ですから、発音した通りを文字化することができます。逆にいえば、単語を組み立てている音がわからなければ、文字に置きかえることはできないということです。

このように、この段階は、文字指導に入る準備の段階なのです。

2, かな文字指導の段階... 4 3 時間	( 表記と発音が対応している場合 )
( 1 ) 清音... 3 7 時間	
( 2 ) 濁音... 6 時間	

ここでは、清音・濁音・半濁音をあらわすかな文字を指導します。ここで扱う文字は、発音と表記が対応している文字で、かな文字表記の基本となる文字です。どの単語で使われていても、同じ発音をするものです。「きりん」「きつつき」「えき」「きました」の「き」は、どれも「ki」と読みます。こうした基本的な学習を、清音・濁音・半濁音のすべてにわたって進めます。

この学習の進め方の基本。

全体としては、まず、母音の指導から始めます。つまり、「あ行」から始めるということです。ただし、「あいうえお」の中の順番は入れ替えてもかまいません。母音から始めることが大切です。なぜなら、これ以外の大多数は、「子音＋母音」からなる音節でできているため、母音を後に回したのでは、かな文字指導はできなくなってしまうからです。

同様に、同じ「行」は一つのまとまりで指導します。子音が同じグループだということです。

これらは、かな文字指導をただの文字指導としないで、発音といっしょに指導するという基本的な立場によっています。教科書では、漢字指導と同様に、かな文字が脈略もなく提出されています。

教科書どおりに指導するということは、脈略なく、出てきたところで出てきた文字を指導するということになります。これでは、子どもたちもかな文字を獲得させることはできません。最低限の体系はふまえるべきです。

また、かな文字指導の学習は、右のような流れを基本とします。これは、現実が文であらわされること、文は単語で組み立てられていること、単語は一つひとつの音節でできていること、その音節は文字にあらわされることを、ていねいに教えていくことが重要だからです。かな文字の指導は、単なる文字指導ではないのです。

現実（絵）を提示する  
文をつくる  
単語をとりだす  
本時に学習する音をとりだす  
文字・発音を知る  
学習した音が使われている単語をさがす  
その単語を使って文をつくる  
本時に学習した文字の練習をする

### 3，表記のしかたの指導の段階... 3 1 時間 （表記と発音が対応していない場合）

- （１）促音... 4 時間
- （２）行と段... 6 時間
- （３）長音... 7 時間
- （４）拗音... 9 時間
- （５）拗長音... 5 時間

ここでは、表記が発音に対応していない場合を学習します。子どもたちが苦戦するところです。

これまででは、一音節に一文字を当てればすみしました。しかし、ここからはそうはいきません。たとえば、促音の場合、「kitte」は「きて」と書きます。しかし、ここでの「っ」は音節をあらわす「つ」ではありません。「っ」は、「き」のあとをつまらせ、「て」の口がまえをしてとまっていること、つまり、「つまる音」であることをあらわす《しるし》です。「つまる音」のときには、小さい「っ」を書くのだという《やくそくごと》になっているということです。

こうした《やくそくごと》のある表記を、この段階で学習します。「ぎゅうにゅう」などのような、《やくそくごと》が二重になった表記は、子どもたちを苦しめます。それだけに、ていねいに学習を進めていくことが大切です。

### 4，文法指導と関係づけて表記のしかたを指導する段階... 1 3 時間

- （１）文と単語... 3 時間
- （２）くつつき（助詞）... 8 時間
- （３）あわせ単語（連濁）... 2 時間

\* くつつきについては、1・2の段階でもとりあげる。ここでは、「は・を・へ」について、特に意識して定着をはかる。

\* 連濁については、入門期以降に意識的にとりあつかってもよい。

最後に、文法に関連した表記のしかたを学習します。おもには「くつつき（助詞）」の学習になります。特に、ここで、「は」「へ」「を」の「くつつき」を定着させるように指導します。

「くつつき」の「が・を・に・へ・で・と・から・まで・の」「は・も」は、単語ではありません。（「学校文法」では、単語としていますが、単語は意味をもっているものです。ところが「くつつき」は、それだけでは意味をもたず、まさにその名の通り、名詞にくっついて、文法的な意味をになうものです。）そういう意味では、特別な存在ですが、なくてはならない存在です。その中でも、「は」「へ」は表記と発音がちがいますし、「を」は「くつつき」だけのための文字です。こうした「くつつき」の表記は、名詞にくっつけて、どういう意味になるのかという学習と一体化させて進めなければ、経験主義になってしまい、平気でまちがえる子が出てきます。高学年でも、たくさんの子が「くつつき」表記をまちがえているのが現状です。しっかりと定着できるようにしたいものです。

なお、このパンフレット作成に際しては、以下の文献・論文・テキストから、多くを引用したり参考にしていたりしています。くわしくお知りになりたい方は、ぜひ、文献にあたってください。

「かな文字の教え方」須田清著 むぎ書房

「『一年生のにっぽんご』の指導 1～3」菅原厚子 「教育国語」2.1～3 むぎ書房

「かな文字指導の原則」佐久間妙子 「教育国語」4.2 むぎ書房

「『一年生のにっぽんご上』にもとづいて」大槻浩子 「教育国語」4.3 むぎ書房

「1年生に日本語をおしえる教師のために」菅原厚子 「教育国語」4.5 - 6 むぎ書房

「にっぽんご1 もじのほん」「一年生のにっぽんご上下」「にっぽんご5」 むぎ書房

「あいうえおあそび下」伊東信夫著 太郎次郎社